

## 国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会 会議録

日 時 平成24年2月10日（金）

午後1時30分から

場 所 あいとぴあ臼田 多目的室1・2

委員出席人数 出席6名  
欠席2名

### ○ 委嘱書の交付

#### 1 開会

#### 2 教育長あいさつ

#### 3 自己紹介

#### 4 国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会設置要綱について

事務局：資料No.1により委員会設置要綱について説明

#### 5 会長・会長代理の選出について

会長・副会長は委員の互選により決定。

●会長 宮本 長二郎 委員

●副会長 細谷 繁夫 委員

#### 6 会長・副会長あいさつ

#### 7 協議 (質疑、意見等要約)

##### (1) 国史跡龍岡城跡保存管理計画の策定について

事務局：資料No.2、資料No.3により説明

##### (質疑・意見)

委 員：保存管理計画の事業の期間は。

事務局：保存管理計画策定業務は国補助金を受けて平成23、24年度で実施する。平成25年3月までに計画の策定、計画書の製本を終える。

委 員：事業は調査と同時に進めるのか。

事務局：保存管理計画により長期的な計画に基づき行う事業と、緊急性のあるものとは分けて実施する。緊急性のあるものについては、県教育委員会や文化庁と協議

の上、修繕を行なう。

保存管理計画を平成24年度で完了し、その後周辺整備を含めた保存整備計画の作成により、市の実施計画に結び付け予算措置をしていきたい。

委員：調査とその後の修理、現在あるものの修理も必要だが、現在ないものの復元も計画に入っていくのか。

事務局：市内各地に散在する龍岡城関連建物の購入や移転復元については、現在の状態の確認や改修状況の確認など専門的な調査が必要であろう。また関係者の意向等も確認、相談しながら進めていきたい。調査をし、使用に耐えられるか、移転なのか、復元なのか、など何段階かに分けて調査を行う必要があり、早急な結論は出ない状況である。

委員：現在所有者がいるものについては、建物の状況を考えると買い取りや移転は難しいのではないかと思う。同じものを作るという方法も考えた方が良い。同じものを新規に復元した方が費用的な面からもいいのではないか。

ワグザバー：所有者の愛着等もあるかと思うが、本物がある場合は元に戻すということが文化庁の基本的な考え方であり、当時のものに似せて建ててしまうことに対してはなかなか許可がおりない。その時代に戻す、その時代に実在していたものがあればそれを戻す、当時の具材が残っている場合は、具材を使って当時の形に復元することが基本となる。

委員：関連建物について、移築の際の変化等の実測調査等を行っているのか。

事務局：まだ行っていない。

保存管理計画書が作成されると、保存管理や保存計画の方向性が示されるので、その中の一つの施策として、実地調査や測量調査を順次計画的に行っていく。

委員：将来龍岡城の完成した状態の平面図・姿図・構造図までできれば良い。

委員：現在龍岡城跡内にある田口小学校の移転について、現在の鉄筋コンクリートの校舎建て替えの時検討された経過がある。田口小学校に対して地区住民は深い愛着がある。五稜郭整備のための学校移転ではなく、児童の減少による統合等、学校の都合による移転により五稜郭整備を行うという方向でお願いしないと、地元の方たちが納得しないかと思う。

事務局：小学校移転については住民の意向は最重要に考えている。計画策定に盛り込むときには、表現に十分配慮していく。

委員：児童の減少による学校の統合や、統合の際には現在の城跡内に小学校は建てられないということは、住民に周知されている。今のところ大きな反対もなく徹底されていると思う。

委員：龍岡城をどのように利用していきたいのかという基本的な考えがまず必要ではないか。その方向性が決まってから建物の復元等について検討考えるべき。また、龍岡城の地下調査を行っていないので、地下の遺構の残存状況の把握も必要となってくる。

事務局：委員会において、保存管理の方針内容と学校の移転をセットにして考えないと、単独で発掘調査を行うことはできない状態。

事務局：一昨年の保存整備委員会後、資料が一つ増えた。全体の竣工図のほかに、もう一枚、<sup>やらいきく</sup>矢来柵を含めた武家屋敷、龍岡城本体の柱の本数が記入された図面が発見された。矢来柵に何本ヒノキの柱が立っていたのか、図面の本数を数えればわかるものである。唯一最後まで残っていた長屋のお宅があり、現在改造はされているもののヒノキの柱は残っている。そのヒノキの柱の数が設計図の本数と一致するため、この設計図はかなり信憑性の高いものとして、今回の管理計画書の添付図面に盛り込む予定である。

委員：設計図はどこにあったのか。

事務局：大工をしていた堀内さんのお宅に保存されていたものをお借りできた。

委員：長野県庁が中野から信大教育学部の場所に移転されたときに、五稜郭の建具がたくさん使用されたということである。当時の建築資料が屋代の歴史館に保管されているので、一緒に確認したらどうか。

ワザバー：長野県の明治時代の公文書は県室に指定され、かなりの資料が残っているので参考になると思う。

事務局：龍岡城の建具は長野牧場の平屋の建物にも使われたという話も聞く。どの部分に使われたかは不明だが現在も残っているということである。資料を調べていくためには長期的な資料の収集、調査が必要だが、大変興味深いことである。

委員：龍岡城の石切場はわかっているのか。

事務局：一昨年から調査を開始し、現在2か所断定できた。1か所は、石を切る際の矢穴の跡が明治以前の方式によるものという確認が取れたので、今後遺跡「龍岡城の石切場」として周知し登録を検討していきたい。もう1か所は完全に崩落している。転石を加工していた場所だったらしい。

委員：江戸城築城の時の石切場と幕末の緊迫した状態を背景とした時の石切場とではかなり違っていたということがわかってきた。そういう背景を考慮しながら石切場とお城との関係を見ていく必要がある。

ワグナー：保存管理計画は、50年、100年先の将来にわたって計画していくものなので、まずは埋蔵文化財の包蔵地にして、将来的な追加指定等、将来展望として管理計画の中に盛り込んでほしい。まずは、龍岡城に関する資産という形で現存する建物や石切場などをすべて調査し、短期的、長期的な視点で考えてほしい。

委員：南側の野面積のづらづみが大分傷んでいるが、今後の方針はあるか。

事務局：排水口の修理の時からわかっていたことであるが、排水の修理を完全に行うと南側の野面積が崩れるであろうと予想されている箇所である。この箇所は耕作により版築層はんちくそうが失われており、水位が上がると水が畑側に流れていってしまうため傷んでしまう。

委員：土手の桜が一部植えられていない場所があるが、観光面から桜を植えることはできないか。

また、残存する龍岡城関連建物の個人所有者は見学に来られて大変迷惑している状態であるため案内しないようにしている。

事務局：残存関連建物を紹介していることにより逆に迷惑をかけている状況があるということだが、将来の方向を決めて対応を考えていきたい。

桜の植栽については、様々な意見があり、また石垣への影響も考えないといけない。いろいろな意見を聞き検討をしていく。

委員：桜は花が咲いているときはきれいだが、堀の中に落ちた落葉が堆積し堀が浅く

なっている状態。冬場は用水を止めるため水が少なく氷が張り、堀の鯉が死んでしまう。昔はかなりの水深があったかと思う。堀内の<sup>しゅんせつ</sup>浚渫を早めに対応したほうが良い。

事務局：浚渫にもいろいろな方法があるが、龍岡城の堀は戦後水田となっており、堀の下の版築層まで傷めてしまっている状態。中の土を全部取り除いてしまうと、石垣の根石がずれ落ちてしまう。どこまで浚渫を行なったらよいかも、専門家や保存委員会で検討し、実行していきたい。

委員：土塁の芯には何か入っているのか。

事務局：5cmあるいは10cm間隔で版築層が作られて、その上に土が盛ってある状態。桜の根が版築層を壊してしまっている。

委員：桜の木は土塁のどのあたりまで植えて良いのか。

事務局：土塁上には植木物は植えないで欲しい。観光との兼ね合いもあるが小学校移転後敷地にスペースができるので、史跡公園化した時に計画的な植樹を地元とともに考えていく。

現在の桜は樹齢50年位であり、そろそろ寿命である。

ワザンバー：桜の木の管理は樹木医等専門家がやっているのか。

事務局：管理は保存会が行っている。

委員：周辺歴史環境整備として、龍岡城を田口城から見下ろすことができるよう、道路・展望台の整備や田口城の標識等の整備も計画に盛り込んだらどうか。

事務局：林道から少し山に入ったところに展望台がある。この場所は史跡なので、大々的な開発は難しいが、整備を行うためには史跡の調査や観光面での整備、林道の整備等関係者との調整が必要。史跡を傷めないように、自然を生かしながらが課題。全体の案内の中で検討すべきことと考えている。

委員：蕃松院のお墓を縫っていく道もあるが、石の崩落が激しく危ない状態のため、公の立場では案内は難しい。

委員：城山の史跡管理は文化財課が行っているのか

事務局：管理はしていないが遺跡包蔵地として周知してある。

委員：現存建物以外で現在残っていないが、中込の山岡邸など払い下げられた移築の経過のわかる建物もあるので、併せて調べていって保存管理計画に反映して欲しい。

ワグナー：沿革調査の中で、城を建てる側の資料が多いかと思うが、田口に築城を誘致した地元側の資料の調査も一緒にしてほしい。

事務局：龍岡城誘致についての地元側からの視点は一番重要な内容だと考えているので、佐久市志、臼田町誌など公に収集した史料を調査し、判っている内容について反映させていく。

委員：陣屋日記にも人足等の記載があり、いろいろな資料がある。

事務局：今後、5年または10年間隔でそれ以後収集した史料について、順次龍岡城関連文書資料集という形での刊行を検討していきたい。

事務局：本日は委員の皆様から有意義なご意見をいただいた。

平成23年度業務として(株)総合環境研究所に委託した内容がデータベースで提出される。その内容を今後委員会において協議・検討いただきたい。

平成24年度の委員会開催の計画として、5月・7月・9月の下旬の開催を予定している。事前に日程調整をさせていただくので、よろしくお願ひしたい。

## 8 閉 会

午後3時17分終了